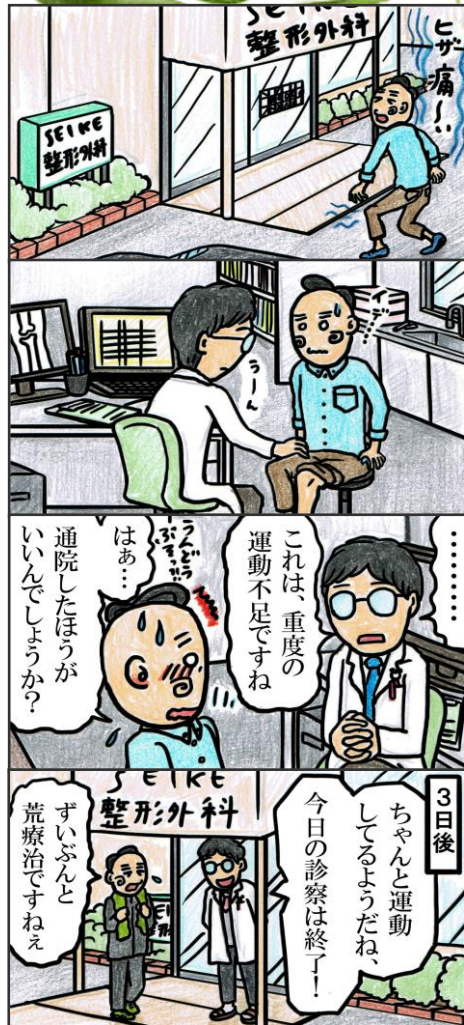


いつもお世話になりありがとうございます。ポストといえば「赤」ですが、「速達専用ポスト」と呼ばれる「青いポスト」をご存じですか。高度経済成長期の1956年に誕生し、ピーク時には全国に400本以上もあったとか。電子メールが普及する遙か昔のことです。今では関西を中心に三十数本を残すのみとなった青いポスト。日本の移り変わりの生き証人ですね。

痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



知っとこ! 「税務のマメ知識」

【平成27年1月1日から変わります】

贈与税の課税方法には「暦年課税」や「相続時精算課税」がありますが、今回は税率構造が変わる暦年課税についてお話をします。暦年課税は、その年の1月1日から12月31日までの1年間に贈与によりもらった財産の価額を合計します。そして、その合計額から基礎控除額の110万円を差し引いた課税価格に、一定の税率を掛けるなどして税額を算出します。税率は基礎控除後の課税価格によって異なり、現状では6段階で段階により10～50%の税率に分けられています。それが平成27年1月1日から8段階になり税率が10～55%になります。また、改正後は一般贈与財産は「一般税率」が、特例贈与財産には「特例税率」が適用されることとなります。特例税率が適用されるのは、直系尊属（父母や祖父母など）から贈与により財産を取得した場合で、その財産を取得した人が「財産の贈与」を受けた年の1月1日において20歳以上である場合となります。なお、特例税率に該当しない場合は一般税率となります。どちらも最低と最高の税率は同じですが、特例税率は一般税率に比べて税率の上がり方が緩やかです。例えば贈与額が600万円だった場合、一般税率では30%であるのに対して特例税率は20%となります。



と最高

副所長

たなべしげお
田邊繁雄の「税務の豆知識」



平成26年度税制改正

～ 相続財産に係る譲渡所得の課税の特例の改正～

「前号からのつづきです。」

いわゆる「3年内取得費加算」と呼ばれる特例の内、相続財産の土地を譲渡したケースについて改正があります。この特例は、一定の相続財産を相続開始のあった日の翌日から相続税の申告期限の翌日以降3年を経過する日（おおむね3年10か月）までに譲渡した場合に、譲渡した方に課税された相続税の一定金額を譲渡所得の計算上、必要経費（取得費）に加算することができるというものです。平成26年12月31日までに開始する相続等で取得した土地については、譲渡した方が相続等で取得したすべての土地に対応する相続税額を加算することができました。

今回の改正では・・・平成27年1月1日以後に開始する相続等で取得した土地については、譲渡した土地に対応する相続税額のみが必要経費に加算されることとなります【すべての土地を売却しない場合は増税】。

したがって、平成26年中に相続に開始があった場合には、現行の制度を適用できることをお忘れなく！

社員のひとこと日記



10月21日に長崎国体が終わりました。福井県勢も大健闘で男女総合成績は1018.5点で17位となり目標としていた10位台を達成したという事です。今回、各競技の成績がポイント制で天皇杯が決まることも初めて知りましたし、たくさんの感動をもらいました。来年からは和歌山県、岩手県、愛媛県そして2018年には、しあわせ福井国体としあわせ福井大会とつながります。今回の長崎国体の経済効果は500億円、観覧者を含めた総参加者数は、のべ90万人ともいわれています。4年後には多くの方が福井を訪れます。設備の整備から審判、宿泊、警備、選手、その他多くのサポート陣など関わっている人は楽しみでもありますが、ほんとに大変だと思います。嶺南では、敦賀市で競泳、弓道、卓球、軟式野球、ソフトボール、空手。美浜でボート。小浜でウエイトリフティング、軟式野球、ラグビー。おおい町で軟式野球、レスリング。高浜でトライアスロン、セーリング。若狭町では公開競技のゲートボール、グランドゴルフなどが行われる予定です。あまりなじみのない競技もありますが、チャンスがあれば応援に行ってみたいです。県では、ボランティアやおもてなしなど一県民一参加で盛り上げることを推奨しているようです。みんなが、日頃頑張ってきた成果を気持ちよく発揮し楽しめるよう、何らかの形でご協力できればいいなと思います。

藤長 佐麻里

365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【社長のためにひと肌脱ぐか】

人は何のために働くのか——。内閣府の調査でも民間のアンケートでも、半数以上の人たちが「働く目的はお金（収入）を得るため」と答えています。実際、お金を稼がなければ生活できないので当然の答えではありますが、経営者にとって従業員の仕事に対する意欲やモチベーションは気になるところでしょう。

人は本当にお金のためだけに頑張れるのか。今から80年ほど前に行われたある実験にひとつのヒントがありそうです。有名な「ホーソン工場実験」です。

実験では継電器の組み立て作業を行う6人のチームを作り、「賃金」「休憩時間」「軽食（おやつ）」などいくつかの条件を変えながら作業効率がどう変化するか観察していきました。賃金を上げる、休憩時間を増やす、休憩時間におやつを出す、これらの条件下では実験が進むにつれてチームの作業効率はアップしていきました。こうした中、今度はすべての条件を元に戻してみたのです。賃金の額も休憩時間も元通り。軽食サービスは廃止。さて、チームの作業効率はどう変化したのでしょうか。意外なことに、労働条件をすべてリセットしたにもかかわらず作業効率は上がり続けました。つまり作業効率が上がった直接の原因は、賃金に代表される物理的な「労働条件」ではなく「人間関係」である。これが実験から導き出された仮説でした。労働条件の変化によってチーム全体の雰囲気がよくなり、そこにチームワークが生まれたことで生産性が向上したというわけです。



人は一般的に、自分に関心や期待を寄せてくれる相手の気持ちに答えようとする傾向があります。「大変な仕事だけどこのチームでならやっつけていける」「このリーダーのもとでなら頑張れる」という個人的な感情が、働く意欲やモチベーションの多くを占めているとするなら、「社長のためにひと肌脱ぐか」という社長ファンになってもらうことが究極のチームワークでありリーダーシップなのかもしれません。リーダーたるもの「魅力的な人」であり続けたいものですね。

人は一般的に、自分に関心や期待を寄せてくれる相手の気持ちに答えようとする傾向があります。「大変な仕事だけどこのチームでならやっつけていける」「このリーダーのもとでなら頑張れる」という個人的な感情が、働く意欲やモチベーションの多くを占めているとするなら、「社長のためにひと肌脱ぐか」という社長ファンになってもらうことが究極のチームワークでありリーダーシップなのかもしれません。リーダーたるもの「魅力的な人」であり続けたいものですね。